Marine Turtler

マリンタートラー

特定非営利活動法人日本ウミガメ協議会機関誌

第13号

表紙の絵

大阪府大東市の小川諒くん（8）がお母さんの'カメの絵を描いて'とのリクエストに答えて描いてくれました。「都会の近くで安心して卵を産んで、子ガメを迎えに来る」という感じに仕上げてくれました。今年の日本ウミガメ会議の開催地、兵庫県明石市はまさに都会でアカウミガメが産卵する場所です。数年間隔で産卵のある明石市では、今年も人工海岸である林崎・松江海岸で産卵がありました。明石会議では、諒くんが描いてくれたように「都会の近くで安心して卵を産める」環境をつくるためにはどうしたらいいのか、話し合うことになっています。タイムリーな絵をありがとうございました！

表紙の絵を募集しています。

皆様から表紙の絵を大募集しています。可愛いイラスト、リアルなウミガメ、ウミガメをモチーフにしたデザイン等々、ウミガメに関するものでしたらどんなもので構いません。ウミガメを見る機会のある方や、日頃から深くウミガメに関わりのある方は、ぜひ一度騙されたと思って描いてみてください。皆様からの素敵な絵をお待ちしております。

- ●サイズ：B5
- ●色：自由。（仕上がりはモノクロになります。）
- ●期限：〆切はありませんが、次号の掲載をご希望の方は、お早めにお願いします。
- ●応募方法：大阪事務局に郵送又はメールでお送り下さい。
- ●送付先：〒573-0163 大阪府枚方市長尾元町5-17-18-302
  日本ウミガメ協議会　マリンタートラー編集部
  ※メールの場合は info@umigame.org　まで
  件名に「マリンタートラー表紙」と入れてお送り下さい。

会報の名称マリン・タートラー(Marine Turtler)は、英和辞書には載っていません。つまり、教育的にはあまり相応しい英語とは言えません。ただし、米国では、最近ウミガメ関係者をこう呼ぶことがあります。ウミガメを守りたい人や、ウミガメを研究したい人、立場上仕事でウミガメに関わるようになった人、ウミガメが好きな人など、ウミガメに関わる全ての人を、我々はマリン・タートラーと呼ぶことを提唱したいと思います。

Marine Turtler

Contents

ウミガメ基礎講座 12
ウミガメの歳
松沢慶将・・・3p

マリンタートラー列伝
「鹿児島の動物といえば・・鮫島正道さん」
亀崎直樹・・・4p

ウミガメの民俗 7
対馬の亀トとウミガメ 2
-海底のアオウミガメ- 藤井弘章・・・5p

事務局より

第19回日本ウミガメ会議のお知らせ ・・・7p

Marine Turtle Divers Projectのお知らせ・・・8p

今年も神戸空港のラグーンにアカウミガメを保護しました ・・・9p

神戸空港のアカウミガメ愛称募集 ・・・10p

ウミガメ調査員（ボランティア）の募集 ・・・11p

「新取扱商品のご案内」
「リボンマグネットを貼ってウミガメ保護」
自宅で出来るウミガメ支援～インターネット編～
「Seaturtle goods shop」
「インターネット募金のご紹介」
「寄付をいただいた方」
「事務局の主な動き」
「編集後記」

ウミガメ基礎講座12
ウミガメの歳

松沢慶将

「女性に歳を尋ねるものではない」と窘められたのはいつのことだっただろうか。世の無常、いや、女性側の都合が理解できるようになり、今はちゃんとエチケットを心得ている。しかし、興味が失せたかといわれれば嘘で、やはり、知りたいものは知りたい。男の性だろう。

淑女と野生動物を同列に扱うとそれこそエチケットに反することなのだろうが、絶滅危惧種や、持続的に利用しようとしている野生動物に関わる者にとって、対象動物の年齢は極めて重要な情報である。今後の動向を予測し適切に対処するには、個体数、死亡率などと並んで、繁殖開始年齢や寿命は、欠かせないからである。海洋動物の場合は生まれたときから継続的に追跡することはほとんど不可能なので、年齢を調べるには、年齢に対応した身体的特徴(年齢形質)が必須となる。魚の場合は鱗、イルカでは歯、ヒゲクジラなら耳垢などにできる年輪がそれである。ウミガメの場合も、年齢はとても求められている情報である。そして、実際に年齢形質は見つかってはいる。ただ、正確な年齢を知るのはいろいろ困難がある。

例えば、タイマイの場合、背甲鱗板の明暗のパターンは水温に対応するように1年周期で形成されることが明らかになっており、年齢形質として使える可能性がある。しかし、先に形成された層は表面後方へ露出して磨耗していくことから、単純なカウントは比較的若い個体でしか使えない。失われた層を見積るにはいろいろと工夫が必要で、今のところ精度の高い推定は難しい。

上腕骨の断面に見られる成長輪もよく知られた年齢形質である。成長が遅い時季に濃く明瞭な線が形成され、それが年周期で形成されるので、この年輪の本数を数えることで年齢を知ることができる。例えば、北大西洋のアカウミガメの場合、7歳で曲甲長46cmまで成長して、早いものは外洋生活を終えて沿岸部で暮らすようになることがわかってきた。しかし、困ったことに、成長にともない骨の中心部が再吸収され、古い年輪はどんどん消えていってしまうという問題がある。そのため、ある程度成長したウミガメについては、やはり、いろいろと工夫を凝らして、失われた年輪の本数を推定してやらなければならず、他の動物のように「この個体は、ズバリ○○歳だ」と断定するのは難しいのだ。ウミガメの年齢は、淑女のそれと同じで、いろいろと勘繰っている間が楽しいのであって、真実は分からないままの方がいいのかも知れない。ちなみに、この手法の権威であるスミソニアン博物館のZug博士のもとで当会研究員石原君が学んできたのは、本誌11号で本人が報告した通りである。今後は、日本のウミガメについても、いろいろと推定年齢が示されるようになり、それに関連して驚愕する新事実も出てくるに違いない。

年齢形質に関連して、一つ面白いアイディアがあるので紹介しよう。染色体の末端にあるテロメアと呼ばれる部位は、細胞分裂とともに短くなっていく性質があり、この長さが使えるかもしれない。生殖細胞やがん細胞では短くなったテロメアが修復されるが、通常の体細胞ではほとんどありえない。テロメアが短くなりすぎるとそれ以上は細胞分裂しなくなる。早老症の一つであるウェルナー症候群の患者や、体細胞の核から作られたクローン動物でテロメアの短縮が見られることからも、テロメアによる細胞の老化は個体の老化と関連することが示唆されている。「超人ロック」という古いSF漫画の中で、不老不死のエスパーの体細胞から作られたクローンは、同等の強い超能力を持つが短命であるという設定があったが、それは、つまりそういうことである。様々な年齢のウミガメについて、様々な部位から採取したテロメアの長さを調べれば、若々しさの指標に使えるところが見つかるかもしれない。亀崎会長に師事していた小林恵理香さんは以前こんなアイディアを暖めていたが、諸事情により他の研究をすることになった。近い将来、どなたかがこの手法を試されることと期待したい。

マリンタートラー列伝
「鹿児島の動物といえば・・鮫島正道さん」

亀崎　直樹

確か1990年の夏のことだったと記憶しています。菅沼弘行さんと全国のウミガメ屋を訪ねて歩き、ウミガメ会議の開催を呼びかけて回ったことがあります。その頃、鹿児島の長崎鼻の海岸でアカウミガメの調査を行っていたのが鮫島正道さんでした。鮫島さんの当時の立場は「長崎鼻パーキングガーデン園長」。はっきり言って、このネーミングは問題です。日本語に直すと「長崎鼻の駐車場の庭」。知らない人にとっては、何の施設かまったく解りません。でも、ここは立派な動物園なのです。

鮫島園長は菅沼さんと私を、そのやさしい顔で迎えてくれました。暑い日で、出していただいた「白熊（鹿児島のかき氷、フルーツやらがごちゃごちゃと入っている）」が実に美味しかったのが、強い印象に残っています。園内を案内していただきながら、「私の専門はトリだったのよ。うみがめはこの下の浜で産卵するもんだから、園の者と一緒に調べるようなったんだけど、孵化率が悪くてねええ。ここに持ってきて、子ガメは孵してあげてるんだけどねえええ。」「亀崎さんは、仕事をやめたのねえ。がんばりなさいよ。学位をとる研究は、こんな仕事とは別だもんね・・」。当時、仕事をやめて京大に通うようになった私に、こんなアドバイスをいただいたりもしました。

鮫島正道さん（左）と筆者（2004年４月）

さて、びっくりしたのはその砂浜でした。孵化率が悪いから移植、そして放流、というパターンは子ガメの放流会をしたがる人達の常套句です。しかし、その砂浜、鮫島さん達がとっているデータをみてびっくりしました。砂浜の砂は真っ黒で、大部分が砂鉄です。手に取ってみると、熱くて触れない上に、ずっしりと重いのです。砂鉄ですから当然です。確かにこの砂では孵化率が悪くなるのは仕方のないことです。やはり、自然のことは、現場にいってみないと解りません。

鮫島さんのすごいところは、そのアイデアと身と頭の軽さです。動物園には鮫島さんの沢山のアイデアがありました。また、鹿児島には両生類、爬虫類など陸生の脊椎動物の研究者がいないため、独学でそれらを学ばれ、「東洋のガラパゴス：奄美の自然と生き物たち」や「鹿児島の動物」などを出版されました。このような広く浅い活動は、昨今、自然保護や動物学の分野では敬遠されがちですが、しかし、鮫島さんがこのような動物をカバーしなければ、鹿児島のこれらの動物の立場の代弁者がいなかったことも確かなのです。

鮫島さんは長崎鼻パーキングガーデンの園長も退任され、現在は地元の鹿児島大学などで教鞭もとられています。最近、ウミガメとは距離があるようですが、当会の理事も発足以来務めていただいております。今しばらくは、鹿児島の自然を見守り続けてくれるはずです。

ウミガメの民俗　7
対馬の亀卜とウミガメ　2
—漂着するアカウミガメ—

藤井弘章

前回は、対馬の亀卜と海底のアオウミガメについて考えてみました。対馬の周辺には海底にアオウミガメが多く、それを捕まえる潜水の技術もあったことが分かりました。江戸時代の『津島紀事』には、海にいるウミガメを捕まえて、亀卜用の甲羅にしたことが書かれています。しかし、一方で、ウカレコウ（浮甲）という、死んで漂着したウミガメの甲羅を亀卜のために用いることもあったようです。これは、亀卜について書かれた江戸時代の別の記録に見えます。対馬には、漂着するウミガメも多いのでしょうか。

対馬には季節風と潮流によって、漂着物が大量に流れ着くことがあります。とくに西海岸に多いようです。東海岸は漂着物そのものが西海岸ほど多くはないようです。西海岸には冬の季節風のときだけでなく、夏場に台風が通過したあとにも漂着物は多いようです。漂着物としては、近年では韓国や中国からのゴミが多くなっています。こうしたとき、ウミガメも流れ着くことがあります。対馬で確認したところ、漂着するウミガメはほとんどアカウミガメのようでした。

全国的にみれば、漂着したウミガメを埋葬して供養する習俗が多いのですが、対馬ではこうした習俗はほとんどみられませんでした。とくに大きいウミガメであった場合、埋葬したということを聞くことはありましたが、そのあとを継続して祀るということはなかったようです。対馬では、漂着したウミガメはそのまま放置したようです。これは現在の聞き取りの結果ですから、江戸時代には、こうした甲羅を利用して亀卜を行なうことも可能であったと思われます。

前回紹介した豆酘の米田親史さんのお話では、ウミガメには2種類あるということでした。対馬近海に住み着いているセヅキのカメと漂流のカメです。こうして比較すると、海底にいるのはアオウミガメ、漂着してくるのはアカウミガメが多いということができるでしょう。

ところで、対馬では砂浜が少なく、アカウミガメの産卵はごくわずかしか見られません。産卵に上陸するアカウミガメに接触する機会はあまりなかったといえるでしょう。このように見てくると、対馬で亀卜にウミガメの甲羅を用いようとした場合、産卵に上陸したアカウミガメを捕まえることは難しいと思われます。むしろ、海底にいるアオウミガメを潜って捕ま

えるか、漂着したアカウミガメの甲羅を使うか、ということになるでしょう。江戸時代の記録を見ても、対馬では、亀ト用のウミガメをこの2種類の方法で確保していたようです。

江戸時代以前のことは記録もほとんどないためよく分かりません。しかし、古代にはおそらく潜水してアオウミガメを捕獲していたのだと思います。ところが、これはだれにでもできるものではありません。しかも、特別な占いですから、だれにでもできては困るのです。卜部という特定の人たちがウミガメを捕獲し、それを使って占いをする必要がありました。対馬ではウミガメを捕獲する人たちを西海岸南部の阿連(あれ)に限定していました。対馬のほかの地域ではウミガメ捕獲を禁止したのです。江戸時代までは死んだウミガメの甲羅を使うことは決してなかったようです。しかし、占いをする人たちの統制が弱まり、ウミガメ捕獲に対する禁忌が増大するなかで、漂着したアカウミガメの甲羅も用いるようになってきたということかと思われます。対馬のウミガメ捕獲の話からは、特定の人々が規制を行うことによって、捕獲に対する禁忌が拡大したという様子がうかがえます。

豆酘では大正ごろまで亀ト用のウミガメを捕獲していたといいます。現在では亀ト は伝わっていますが、以前からある甲羅を焼くまねをするだけで、新たな甲羅を用いてはいません。

今回の話は、『民俗文化』20号（近畿大学民俗学研究所、2008年3月）に「対馬・壱岐におけるウミガメの民俗—亀ト の里とウミガメ—」としてまとめてあります。詳しくはそちらをご参照ください。

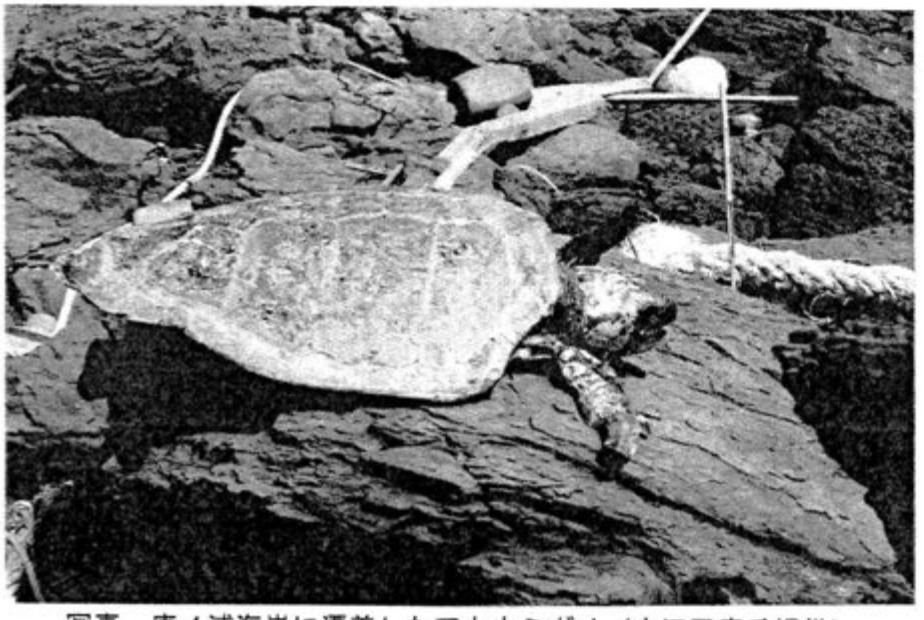


写真　唐ノ浦海岸に漂着したアカウミガメ（大江正康氏提供）

第19回 日本ウミガメ会議（明石会議）のお知らせ

まだまだ集計作業は終わっていませんが、今年はアカウミガメの産卵巣数が大幅に増えました！！

全国各地からうれしい悲鳴が聞こえてきています。皆様と一緒に、明石で喜び合えることを主催者一同楽しみにしています！

日時：　2008年11月28日（金）～30日（日）
開催場所：兵庫県　明石市市民会館大ホール
　　懇親会会場　勤労福祉会館

28日　公開シンポジウム
　「自然再生としての人工砂浜とその課題」
　基調講演「ウミガメの卵がかえるには-砂浜はどのように機能するのか？-」
　　ラルフ・アッカーマン（米）

29日　日本各地からの活動報告
　　懇親会（タートルパーティー）

30日　日本各地からの活動報告

（28日および30日には船の上からの海岸視察（無料：要予約）も予定）

会議参加費　一般　会員 5,000円　非会員 7,000円
　　学生　会員 3,000円　非会員 4,000円
　　（参加費には「日本ウミガメ誌2008」の代金が含まれています）
　　明石市民は無料（日本ウミガメ誌の必要な方は会場にて販売）

懇親会費　5,000円

主催　日本ウミガメ協議会・明石市・明石市教育委員会

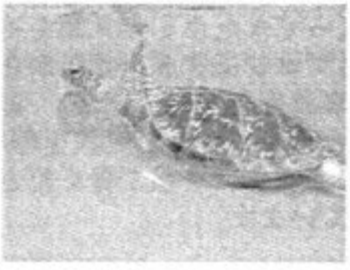
後援　国土交通省・環境省・水産庁・明石商工会議所

お問い合わせ　日本ウミガメ協議会　中本・水野
　　info@umigame.org　TEL:072-864-0335 FAX:072-864-0535

Supported by

カネテツデリカフーズ　symantec.　STELLA　亀井堂　MSDS　CULINAIRE

Marine Turtle Divers Projectのお知らせ
ウミガメの海中写真をお送りください



●目的

日本の沿岸は太平洋のウミガメにとって重要な餌場であることが様々な情報から明らかになってきました。ところが、産卵に上陸するウミガメとは違って、海の中で生活するウミガメの生態や分布はわかりません。
そこでダイバーの皆さんの力をお借りして、日本の沿岸の何処で、どのような種類のウミガメが、どのようにして生活しているかを明らかにしたいのです。これによって得られた成果に基づいて、彼らの保護対策を立てることができるのです。

●規定

ウミガメの写真なら質は問いません。また、小さく写っている写真も周辺の環境を知る上で重要です。日付、場所、水深などのデータがあれば送って下さい。

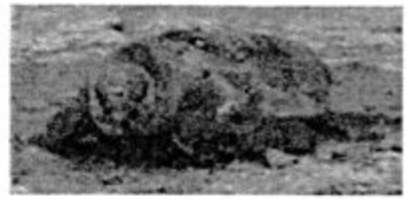
●その他

この企画に寄せられた写真の中から、ウミガメの生物学上貴重な写真、芸術的に優れた写真を選び、エコロジカル・アワードとアーティスティック・アワードとして表彰します。審査員は沖縄座味島の井上慎也さん、高松明日香さんと日本ウミガメ協議会会長の亀崎です。送っていただいた写真は分析のみに使わせていただくものとし、版権は撮影者にあるものとします。もし、使用させていただく場合は改めて連絡をとらせていただきます。
ダイビングショップ等の店を経営されている方で、ポスターの掲示をしていただける方はご協力願います。ポスターのサンプルは当会ＨＰをご覧下さい。

●応募先　（メールまたは郵送でお願いいたします）
「マリンタートル・ダイバーズ・プロジェクト」係
diver@umigame.org
〒573-0163　大阪府枚方市長尾元町5-17-18-302
ＮＰＯ法人　日本ウミガメ協議会

応募者全員にSave the Umigameステッカーを差し上げます

今年も神戸空港のラグーンにアカウミガメを保護しました



日本ウミガメ協議会では神戸市と協力して、大阪湾に入ってきたウミガメ類を神戸空港内に造成された人工海水池（通称ラグーン）にて保護するプロジェクトを昨年から開始しました。その理由は大きくわけて（1） 危険な海域での事故死を防ぐ、（2） 捕まったウミガメの健康を確認して放流する、（3） 市民にウミガメのおかれた現状を理解していただく、の３つです。去年の結果についてはマリンタートラー12号をご覧ください。
※2008年度は10月15日時点で4頭のアカウミガメを保護しています。

今年度の経過

5月30日　リバイブ・ウミガメ戦略会議2008「ホイットとチョット飲みながらカメをみる会」in 神戸酒心館

最近、環境問題などを扱う講演会は堅いものが多いと感じていたことから、大人が酒を飲みながら楽しめる講演会を企画。太平洋の反対側で活動しているホイットの講演はすばらしく、多くの方々にウミガメをより理解いただけたと思います。カネテツさんから最高級のかまぼこの差し入れもあり、酒心館によれば酒はいつもの３倍でたとのこと。

6月26日　１頭目をラグーンに放流

両前ヒレの欠けたアカウミガメが漁師さんによって保護されました。どうもサメに襲われたようです。

8月8日　健康診断実施

平日のため、非公開で行いました。傷口も閉じつつあり、体調に大きな問題はないようでした。

8月23日　2・3頭目をラグーンに放流

いずれもアカウミガメで、それぞれ左前ヒレや左後ヒレを怪我していたので、健康状態を確認するため、ラグーンに収容しました。

9月20日　健康診断および第１回ウミガメ・エコツーリズムを開催

約250名の皆様に参加していただき、どのウミガメも健康状態に大きな問題のないことが確認できました。

9月25日　4頭目をラグーンに放流

甲羅にカメフジツボがたくさん付着していましたが、肉付きは良く、健康なアカウミガメでした。

今後の予定

11月中旬　第３回健康診断およびウミガメ・エコツーリズムの開催

野生のウミガメに触れられる数少ない機会です。皆様のお越しをお待ちしています。

土日祝日　ラグーン無料開放

普段は近くで工事をしているため、立ち入り禁止ですが、土日祝日は空港ターミナルから無料シャトルバスが出ています。広いラグーンを悠々と泳ぐウミガメ達をのんびりした気分で探してみてください。

12月上旬　外洋に放流

十分に水温が下がり、大阪湾から出て行く季節に放流します。詳細な日時は未定。

愛称も募集中！詳細は次ページ

神戸空港のアカウミガメ
愛称募集中！！

今年度、現在保護されているアカウミガメは計４頭になっています。（現在、保護しているアカウミガメの内、２頭が四肢を欠損しており、野生復帰に向けてリハビリ治療中です。）

今回、これらのウミガメを管理していますＮＰＯ法人 日本ウミガメ協議会では、昨年同様に愛称（名前）を一般募集いたします。（愛称決定以降に、保護、収容されるウミガメがあれば、応募いただいた中から、再度選考して随時決定していきたいと思います。）

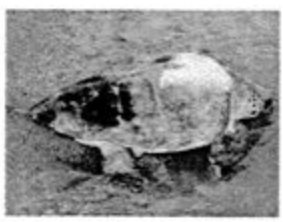
それぞれの個体が、自然界に戻ってもたくましく生きていけるよう願い、親しみのある愛称を期待しています。

1. 募集期間：平成２０年１１月４日（火）まで
2. 応募制限：お一人様4 件まで（１個体１件。個体を特定せず、１件で応募も可）
3. 愛称発表：ＮＰＯ法人日本ウミガメ協議会と神戸市で協議の結果、11月中旬に開催予定の「第２回ウミガメ・エコツーリズム」の中で発表いたします。

各命名者には、名付けたウミガメの写真入りフォトフレームとウミガメ協議会オリジナルウミガメグッズをプレゼントします。

4. 応募方法：日本ウミガメ協議会HPの応募フォームをご利用になるか、
メールまたはFAX　(mail: info@umigame.org　FAX: 073-864-0535)
で日本ウミガメ協議会　愛称募集係まで

A.



①搬入日:6月26 日(木)
②甲長:74cm
③体重:63kg
④性別:不明(おそらく雌)
⑤特長:混獲時、サメによる咬傷で、両前肢が約半分欠損している。傷口は閉じたが、遊泳速度は他の個体に比べて遅い。

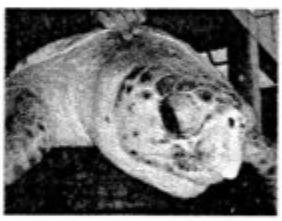
C.

①搬入日:8月23 日(土)
②甲長:76cm
③体重:54kg
④性別:雄
⑤特長:左後肢が欠損しているが、遊泳に問題はなく、健康状態は良好。

B.

①搬入日:8月23 日(土)
②甲長:77cm
③体重:61kg
④性別:雄
⑤特長:4個体の中で甲長が一番長い。左前肢の動きが良くないが、健康状態は良好。

D.



①搬入日:9月25 日(木)
②甲長:72cm
③体重:58kg
④性別:不明
⑤特長:肉付きはよく、栄養状態に問題は認められない。甲羅にカメフジツボが多数。

ウミガメ調査員（ボランティア）の募集

日本ウミガメ協議会では下記の通り、ウミガメの調査員を募集しています。
自然の中でウミガメに触れてみたいという方のご参加をお待ちしています。

A　場所／内容

1　和歌山県みなべ町

６月から９月にかけてアカウミガメの産卵調査の手伝いをお願いします。

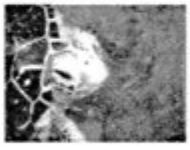
夜、砂浜を歩いて上陸するカメや孵化する子ガメの調査を行います。

2　高知県室戸市

年中実施。早朝と午後にある定置網の操業に立会い、一緒に捕れるウミガメの調査を行い、標識放流します。朝早い仕事ですが、漁師さんに新鮮な魚をもらえることもあります。

3　沖縄県八重山諸島黒島

当会付属の黒島研究所の業務を手伝っていただきながら、島の西側にある砂浜でウミガメ調査を行っていただきます。またウミガメのみならずサンゴ礁の生物とどっぷり親しくなれます。



B　費用

現地までの交通費とそれぞれの施設の使用料が必要となります。みなべと室戸での活動は、事前に大阪事務局（枚方市）での説明会に参加していただきます。

○施設使用料

みなべ基地宿泊費・食費1500円/１日、室戸基地宿泊費500円/１日、黒島研究所宿泊費1500円/１日。

C　その他

年齢18歳以上。１は期間内に５日以上滞在可能な方、２，３については２週間以上滞在可能な方を対象とします。また、２については公共交通機関もありますが自家用車で行かれた方が便利です。

詳しくは大阪事務局までご連絡ください。

メール info@umigame.org　　電話　072-864-0335　　ファックス　072-864-0535

新取り扱い商品のご案内

■□ ウミガメデザインTシャツ　3,150円（税込み）

当会オリジナルデザインのTシャツが新登場！
白（または黒）と黄色の☆にウミガメのイラスト、「Vivimos con las Tortuga marina」という文字が描かれています。「みんなでウミガメと一緒に生きていこう！」という意味のスペイン語です。日本のアカウミガメが成長するメキシコのバハ・カリフォルニアではスペイン語が使われており、日本の人もメキシコの人も、みんなでウミガメと生きていこう、という願いも込められています。
　色はnavy blue, gray, green, pink, white

■□ ウミガメよいつまでも 土井邦江　著【書籍】 700円（税込み）

アカウミガメの産卵地の和歌山県みなべ町千里の浜を舞台に、ウミガメの保護を訴える絵本。
物語は青年団に誘われた男の子を主人公とし、浜のパトロール中にアカウミガメの産卵を見つけます。そしてみなべで何十年も調査保護を続けておられる後藤先生が見学の子供達を連れてくる…というような内容です。
読んでるとなんだか心がジンッとするような絵本です。
主婦の土井　邦江さんが作製しました。
限定10冊です！
縦26センチ、横20,5センチ、36ページ

■□ ペンギンもクジラも秒速２メートルで泳ぐ -ハイテク海洋動物学への招待- 佐藤克文　著【書籍】　900円（税込み）

第24回講談社科学出版賞の受賞作。著者の佐藤氏は京都大学に在籍していた頃に和歌山県のみなべ町（旧南部町）でウミガメの研究をされていました。
その頃の裏話なども出てくる読み応えのある１冊です。
去年からの取り扱い商品ですが、受賞のお知らせとともに掲載いたしました。

メール・faxの他、シータートル グッズ ショップでのご購入が可能です。

リボンマグネットを貼ってウミガメ保護

リボンマグネットとは？
購入すると金額の一部がチャリティ活動に充てられ、その活動を支援する証として「リボンマグネット」を車に貼るというもので、アメリカではすでに全土に渡って広く普及している、個人参加形式のチャリティ活動です。

あなたの愛車にリボンマグネットを貼ってウミガメを守る活動に是非、ご参加下さい。
同様に、モバイルグッズに貼って海を守る活動支援に参加する、リボンステッカーも販売中です。

リボンマグネット　ホヌシリーズは、売上の一部を当会に、リボンステッカーは売上の一部を「サーフライダーファウンデーションジャパン」「日本ウミガメ協議会」の2団体へ均等に寄付されます。

リボンマグネットの詳細は　ＨＰ(http://www.ribbonmagnet.jp/index.html)をご覧下さい
米国MagnetAmerica社リボンマグネット正規代理店　M's DS のＨＰはhttp://www.msdsgroup.com/です。

＊日本ウミガメ協議会でも販売を始めました。

自宅で出来るウミガメ支援
～インターネット編～

Seaturtle goods shop

写真のマグカップなど、当会メンバーが各地で見つけたウミガメグッズも紹介しています。
1点ものもありますので、お早めに！

インターネット（パソコン）でお買い物

日本ウミガメ協議会の提供するグッズがインターネットショップでご購入いただけるようになりました。

各種ウミガメグッズのご購入はもちろん、会費のお支払いやご寄付にもご利用いただけます。これまではご購入代金を振り込んでいただく必要がありましたが、代引き、各種クレジットでのお支払いもできるようになりました。ネットバンキングで当会イーバンク口座へご入金いただけば、手数料もかかりません。

http://seaturtle.shop-pro.jp/ からご来店ください。
（日本ウミガメ協議会のHPからリンクしています）

モバイルショップ（携帯電話）でお買い物

携帯電話からもSeaturtle goods shopにアクセスしていただくことができます。

http://seaturtle.shop-pro.jp/　または左のQRコードを読み取

インターネット募金のご紹介

当会では、YAHOO!JAPANのホームページ上から、「ウミガメ類を保全するための調査支援 」、「産卵・発生環境（砂浜）保全プロジェクト 」をテーマにワンクリック募金のお願いをしています。

YAHOO!JAPAN ワンクリック募金とは？

YAHOO!JAPANのホームページ上から行えるインターネット募金のことで、募金のお礼に当会の提供する壁紙をダウンロードしていただけます。（金額は500円～100,000円（税込）の範囲で寄付者が指定できます。）購入金額に含まれる消費税は別途納税し、その消費税と同額をYahoo!JAPANが補填（ほてん）した後に団体へ送金いたします。

＊募金をするには、Yahoo! JAPAN ID（無料）でのログインと、Yahoo!ウォレットへの登録（無料）が必要です。

ウミガメ類を保全するための調査支援

日本国内では5種のウミガメ類が見られます。そのうち最も一般的な種は本州や四国・九州・沖縄で産卵するアカウミガメです。しかし、北太平洋のアカウミガメが産卵をしているのは日本の砂浜しかなく、日本で産卵するアカウミガメがいなくなるのは、北太平洋からアカウミガメがいなくなることを意味しています。

このアカウミガメをはじめとしたウミガメ類が2004年には316頭、2005年には495頭も海岸線へ死んで漂着しています。こうしたウミガメ類を保全していくためには、産卵をするウミガメがどれほどいるのか、死んだウミガメがどれほどいるのかなど、その現状や生態を知ることが必要です。

当会ではそうしたウミガメ類に関する情報を広く集め、保全に役立てています。

お預かりした募金は、以下のようなウミガメの保護・調査にかかる費用に充てられます。

※産卵頭数の調査・研究
現地までの交通費や必要な資材費。また、全国の協力団体・個人へ貸し出す専用ノギスや標識用器材の購入などに充てられます。

※漂着個体の保護・調査
漂着情報を集めるための携帯電話用ステッカーの作成費や配布にかかる費用、漂着現場までの交通費・調査経費や保護個体の飼育にかかる費用に充てられます。

※漁網に誤ってかかったウミガメの調査・保護
混獲されたウミガメの種や大きさなどを記録するための経費と共に、保護が必要なときに許可を取った上で、放流できるようになるまで治療するための費用に充てられます。

インターネット募金トップ(http://volunteer.yahoo.co.jp/donation/)
環境の保全(http://volunteer.yahoo.co.jp/bin/dsearch?g=5&b=1&z=o)
ウミガメ類を保全するための調査支援
(http://volunteer.yahoo.co.jp/donation/detail/177001/)

ご寄付を頂いた方々

栄東高校　ピアしっくす　多胡彰郎　照本善造　(株)リンドバーグ　森野由
黒須裕子　石井紀孝　松平和子　鈴木慎二　(株)M'sDS　(株)エイ出版社　松田七海
大和ハウス工業(株)　綿野加奈子　ヤフー(株)　大木フミコ　阪本登　和田新平
清水紀代美　矢部まみ　水谷　文　高尾真規子　立川勝義　土井畑公昭　永妻友子
通事建次　宮形圭孝　阿部盛憲　海鋒陽子　綿貫道代　綿貫慧　齋藤充　吉川信博
橋詰英樹　宮口光敏　小谷野有加　野村恵一　日下部弘昭　宗像美穂　樋口伸一
後藤清　米田耕作　谷口克之

(順不同・敬称略) 2008年5月1日～2008年9月30日まで

事務局の主な動き

(2008年5月～2008年9月末まで)

5月16日	和歌山県みなべ町での みなべ学講座にて講演
5月16日	香川県の地蔵川に漂着したアカウミガメの調査
5月25日	種子島にて第2回ウミガメサーフィン祭りに参加及び講演
5月27日	中種子町長を表敬訪問
5月29日	メキシコの研究者と漁師との交流
5月30日	兵庫県神戸市にて「ホイットとチョット飲みながらカメをみる会」
5月31日	徳島県美波町にて徳島県ウミガメ調査協力員の講習会実施
6月 1日	愛知県豊橋市にて「表浜おいでん祭2008」に協力参加
6月 1日	ウミガメ博物館カレッタにて内視鏡での性判別法の講習会
6月 4日	兵庫県明石市にてアカウミガメの産卵巣近傍に温度ロガー設置
6月 6日	兵庫県淡路島に漂着したアカウミガメの解剖と亀供養
6月 6日	鹿児島県野間池にてカメ談義開催
6月 9日	大阪湾内で死亡したアカウミガメを解剖
6月13日	事務局近くで協議会ゼミを開催
6月20日	和歌山県みなべ町にて産卵調査開始
6月25日	両前肢をサメに食べられたアカウミガメを保護
7月 9日	屋久島にてアオウミガメ（ジェーン）に衛星発信器装着
7月16-20日	八丈島にてフィブロパピロマの現状調査を実施
8月11日	アメリカ合衆国にて国際ウミガメ学会理事会に出席
8月 8日	神戸空港にてアカウミガメの健康診断を実施
8月23日	神戸空港人工ラグーンにアカウミガメ２頭収容
8月23日	愛知県碧南市にて第10回日本カメ会議に参加・発表
8月24日	三重県紀北町にてアオウミガメの野生復帰イベントを開催
8月30-31日	静岡県御前崎にて「FEEL EARTH2008×WINDBLOW」に出展
8月30-31日	沖縄県北部で孵化率調査
9月13日	高知県室戸市にて漁師のNPO理事会・総会に出席
9月20日	神戸空港にて第1回ウミガメ・エコツーリズムを開催
9月24日	神戸空港人工ラグーンにアカウミガメを1頭収容

STSmembers募集中

STS(SeaTurtleSupport)membersは、ウミガメと共に生きていける自然、環境について考え、その研究・保護活動に協力する人々の集まりです。

日本ウミガメ協議会では、当会をサポートしてくださるSTSmembersを随時募集しております。皆様のお知り合いで、自然が好きな方、海が大好きな方、ウミガメに興味をお持ちの方がおられましたら、是非、入会をお誘い下さい。

入会金：なし、年会費：個人会員3,000円、学生会員1,000円、団体会員10,000円、特別会員100,000円

会員特典：　オリジナル会員証＆グッズ、機関誌

携帯電話用ウミガメステッカーの配布

当会では、少しでも多くのウミガメの情報を得るために、当会の連絡先がプリントされた携帯電話用ウミガメステッカーを配布しています。現在、金・銀・赤・緑・黄の５色があります。もし、海岸や海でウミガメの産卵や死体を見つけた時は、これを見て協議会にお電話下さい。

ステッカーを貼ってくださる方、お友達に配っていただける方は、必要枚数をご記入の上、80円切手を貼った返信用封筒をお送り下さい。また、このステッカーを作成するための募金も募っております。

皆様のご協力をお願いします。

携帯用ステッカー

編集後記

今年は台風が本当に少ない年でした。日本各地で、台風の少ない年のウミガメは卵を波打ち際に近くても産む、と言われているようです。さて、実際今年はどうだったのでしょうか。また、今年のアカウミガメの産卵巣数は日本ウミガメ協議会の設立以来一番多いことは間違いありません。今年は大いに祝いましょう！ 詳しい結果は現在必死に取りまとめており、例年通りウミガメ会議にてお知らせいたします。

さて、その日本ウミガメ会議は今年で19回目を迎え、兵庫県の明石市で開催されます。人工海岸で産卵する明石市の会議では、人工海浜をキーワードに自然を再生するための方法を探っていきたいと思います。また、一昨年の熊野・七里御浜会議に参加したHoytが今年も参加します。Hoytはメキシコのバハ・カリフォルニアでウミガメの研究と保護活動をしているNGO、Pro Peninsulaの代表もしている気さくなアメリカ人研究者です。この他、珊瑚礁の島国モルディブからの参加もあります。こう書くと、なんだか固そうな感じもしますが、そんなことはありません。

「楽しくやることが大切」が信条のウミガメ会議ですので、気楽にご参加ください！！

編集担当:石原　孝

マリンタートラー（日本ウミガメ協議会機関誌）

発行日　　2008年10月20日
発　行　　日本ウミガメ協議会

〒573-0163　大阪府枚方市長尾元町5-17-18-302
電話:072-864-0335　　FAX:072-864-0535
URL　http://www.umigame.org　E-mail info@umigame.org